

【地震対策事業】

○評価結果

事業の現状・課題	<p>◇災害発生時における個別具体の検討が不足しており、実践的な行動計画・マニュアルが策定されていない。特に次の点については、著しい問題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 備蓄食糧の殆どを1箇所(さむかわ中央公園)で保管しており、かつ、避難所への分配方法も明確になっていないこと。 * 災害発生時における、自主防災組織ごと等の地域事情に応じた、具体的・実践的な行動計画や訓練が不十分であること。 * 液状化による被害想定を詳細には把握しておらず、その対策に係る検討が不十分であること。 <p>◇現行の備蓄目標値は、性質や規模が全く違う資機材を全て足したうえで達成率を示すなど、その算出方法が適切ではない。</p>	
評価結果	事業の方向性	要改善
	<p>◇被害想定や町の特性に係るきめ細やかな調査・研究を行った上で、寒川町地域防災計画を見直すとともに、災害発生時のシミュレーションや実践的なマニュアルの作成を行うべき。なお、その際には、特に次の事項に関して見直し・策定を行うことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 備蓄食糧については、保管場所の分散及び災害発生時における分配方法に係る計画を早急に検討し、策定すべき。 * 災害弱者のタイプや人数を想定し、備蓄内容やその分配方法へ反映させるなど、地域の実状に応じた計画の策定及び訓練の実施などの方策を講ずるべき。 * 液状化による被害想定とその対策に係る検討を早急に行い、計画を策定すべき。 <p>◇備蓄目標値については、資機材ごとにその必要性・必要数を検討し、設定・公表の方法を検討すべき。</p> <p>◇町民の防災意識を高めることが重要である。町は町民の備蓄状態(備蓄率)を把握し、それを公表した上で、各家庭において3日分程度の食料品等を備蓄するように働きかけるなど、自己防衛の観点から啓発を行うべき。また、備蓄食糧については、人口比で備蓄量を単純に決めるのではなく、災害弱者優先の備蓄に切り替えるなどの検討も必要。</p>	
	予算額	増額
	<p>◇きめ細かい計画の策定・マニュアルの作成に要する費用に関しての人員増も含めた増額とする。</p>	

概要説明書

事務事業名	地震対策事業	体系コード	33113-02
主管課	防災安全課防災安全担当		

(単位:千円)

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施		
	<input checked="" type="checkbox"/> 委託業務 (委託先(株)サンエーサンクス)		
	<input type="checkbox"/> 補助金 【 <input type="checkbox"/> 直接 <input type="checkbox"/> 間接 】 (補助先 実施主体:)		
	<input type="checkbox"/> その他 ()		

	事業	詳細内容	平成23年度 決算見込額	平成24年度 予算額	
主な事業の 内容と事業費	地震災害警戒本部	地震防災応急対策等の実施及び実施の推進に係る地震災害警戒本部に関すること			
		本部員の選定・委嘱に係る事務	-	-	
		開催通知の発送及び会議公表に係る事務	-	-	
		地震災害警戒本部員報酬の支出事務 @8,700円×4人 (消防団長・NTT茅ヶ崎支店交換設備担当課長・東京電力神奈川支店平塚営業所料金課長・神奈川中央交通茅ヶ崎営業所長)	0 (報酬)	35 (報酬)	
		議事録の作成及び公表に係る事務	-	-	
	災害時用備蓄食糧	災害時用及び総合防災訓練用の食糧の購入に関すること			
		アルファ化米の購入に係る事務 (計10,350食) 2,484,615円	2,493 (需用費)	4,730 (需用費)	
		無洗米の購入に係る事務 (5kg×4袋) 8,800円			
		備蓄食糧の管理及び保管	-	-	
	耐震性貯水槽維持管理	町内4カ所に設置されている耐震性貯水槽の遮断弁・給水室の点検、清掃等の管理に関すること(隔年で2カ所ずつの実施。平成23年度は旭小学校とさむかわ中央公園)			
上記管理の専門業者への委託に係る契約及び支出事務 154,350円		154 (委託料)	155 (委託料)		
災害時用備蓄資材	災害時用及び総合防災訓練用の資材の購入に関すること				
	土のう用川砂の購入に係る事務 (7立米) 47,600円	48 (原材料費)	28 (原材料費)		
	備蓄資機材の管理及び保管、保守	-	-		

概要説明書

その他	<ul style="list-style-type: none"> * 自主防災組織(自治会)等への防災に関する講演会、研修会等の実施(7回実施) * 町イベント時におけるチラシ、パンフレット等の配布による啓発(緑のフェスティバル、産業まつりの2回) * 地域防災計画の見直しの検討 * 避難所運営マニュアルの作成 * 災害時職員行動マニュアルの作成 * 地域防災力の強化と防災意識の高揚を図ることを目的とした総合防災訓練の実施(参加総数:720人) * 中越地震で被災された方を講師として、貴重な被災体験を講演いただいた防災講演会の実施(参加総数:134人) * 湘南7市4町防災事務連絡協議会における近隣市との連携及び防災関係資料の収集、情報交換(年2回開催) * 広域避難場所案内板(10箇所)や広報掲示板(56箇所)、公園(40箇所)、町公共施設(23箇所)への標高表示 			
事業費計		(a)	2,695	4,948
平成23年度人件費相当額 (算出根拠については、事務事業評価シートを参照)		(b)	3,875	/
本事業に係る費用の計		(a)+(b)	6,570	/
事業の必要性 (事業規模の縮小や休廃止した際の影響等)	<p>地震災害警戒本部:大規模な地震等の警戒宣言が発せられた場合に設置、招集された際に上記4名に対して支払われる報酬であるため必要である。</p> <p>災害時用備蓄食糧:備蓄食料のアルファ化米については、県がまとめた「神奈川県地震被害想定調査報告書」により当町で最も被害が大きいとされる南関東地震の避難者数31,100人の1日分(3食)=93,300≒94,000食を備蓄目標として毎年計画的に購入をしている。平成28年には目標数に達する予定。</p> <p>耐震性貯水槽維持管理:災害時において断水した際に飲料水を確保するための設備である耐震性貯水槽についての点検、清掃を行っている。</p> <p>災害時用備蓄資材:土のう用の川砂については、毎年、残量をみながらその年に必要と思われる分量を購入している。なお、総合防災訓練時等に作成した土のうを災害に備え保管している。</p> <p>担当としてはいずれの事業についても必要な事業であると考えます。</p>			
町における類似事業	防災対策事業費(地域防災計画に基づいた、各種災害から町民の生命と財産を守るため、防災対策の充実、町民の防災意識の高揚を図るための事業)			
比較参考値 (他自治体の状況・ベンチマーク等)	備蓄食料について(別紙参照)			
24年度の状況と今後の方針	備蓄食料については、15,350食と23年度に比べて5,000食多い予算確保ができた。また、避難所において活用するガスパワー発電機(10台)の予算も新たに確保することができた。今後も、地震対策として有効な備蓄食料、設備の点検、備品の購入などを計画的に実施し、整備して参りたいと考えております。			
特記事項 (事業の沿革等)	地震対策としては大震災等の発生に備え、被災者に対し最低限必要な生活物資等が供給できるよう、備蓄品や備蓄食料の確保及び関係設備の点検、整備を計画的に行う必要がある。			

(別紙)

備蓄食料一覧表

単位：食

	寒川町		茅ヶ崎市		厚木市		平塚市	
	人口：47,427人		人口：236,204人		人口：224,039人		人口：260,191人	
	全体	1人分	全体	1人分	全体	1人分	全体	1人分
アルファ化米	16,700	0.35	34,000	0.14				
おかゆ			22,000	0.09	29,600	0.13		
クラッカー、ビスケット	1,960	0.04	98,500	0.42	19,760	0.09		
シチュー			17,000	0.07				
かんぱん					26,368	0.12		
10年保存食	27,280	0.58					150,158	0.58

災害応急対策用備蓄資機材一覧表

No. 1

平成24年7月26日現在

備蓄倉庫名	中央公園倉庫	役場防災倉庫	物品庫	倉見防災倉庫	福祉活動セン	寒川小学校	一之宮小学校	小谷小学校	旭小学校	南小学校	寒川中学校	旭が丘中学校	寒川東中学校	寒川高等学校	合計	計画 目標 備蓄数			
	住所	規模	箇所数	区分	品名	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量				
住所	宮山275	宮山165	宮山165	倉見936	岡田610	宮山934	一之宮7-3-1	小谷4-5-1	倉見1675-3	一之宮9-9-1	一之宮3-9-1	小動933	岡田718	一之宮9-30-1					
規模	RC構造 187.11㎡	アルミ 9.6㎡	鉄筋鉄骨コンクリート 340.2㎡	軽鉄 99.37㎡	軽鉄 41.62階㎡	アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	体育館更衣室 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	鉄骨約50㎡	アルミ 9.6㎡	技術室棟 アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡			
箇所数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
区分	品名																		
食料品	サバイバルフーズ(食)	24400		480									2400			27280	94000		
	アルファ米(食)	16700														16700	94000		
	食塩20kg	18														18			
	災害用クラッカー(パック)	1960														1960	31100		
食生活用品	食器5点セット	25			110											135	110		
	100人用食器セット(セット)	17	2		33											52	1000		
	かまどセット				8											8	10		
	くんしん 5 ^{キログラム}				140											140	200		
	なべ				30											30	30		
	ヤカン				30											30	30		
	炊飯袋		2000				2000	2000		2000	2000		2000		2000	2000	20000	24000	
	給水タンク給水一式	1					1	1		1						4	4		
	ろ水機(2㎡/時)						1	1		1	1					5	5		
	給水袋(10ℓ)						2000	2000		2000	2000		2000		2000	2000	18000	18000	
	ポリタンク(10ℓ)				37		12	12		12	12		12		12	12	145	145	
	ポリタンク(15ℓ)				20												20	20	
	ポリタンク(20ℓ)				53		24	24		24	24		24		24	24	269	269	
ウォーターバルーン						1	1		1	1		1		1	1	9	9		
生活用品	発電機(2KVA)				19											19	20		
	投光機				4		2	2		2	2		2		2	2	22	22	
	コードリール				23		2	2		2	2		2		2	2	41	41	
	トランジスタメガホン				12		2	2		2	2		2		2	2	30	30	
	メガホンスピーカー				1												1	1	
	防水ライト				38		20	20		20	20		20		20	20	218	218	
	強力ライト				70		20	20		20	20		20		20	20	250	250	
	ダイナモ式電灯			42													42	200	
	リアカー				3		1	1		1	1		1		1	1	12	20	
	空気入れ	1			1		1	1		1	1		1		1	1	11	11	
	防水シート	990					30	30		30	30		30		20	30	1250	1470	
	毛布(枚)	6026				130	100	100	1230	100	100	100	100		100	120	100	8406	16400
	寝袋	10															10	30	
	簡易担架ベット	99				496								30			625	1000	
	簡易組立トイレ	1					1	1		1	1		1		1	1	19	50	
	簡易トイレ(台)	65			100								175		30		370	500	
	簡易トイレパーソナルテント	10															10	30	
	身障者対応トイレドントコイ	1															1	3	
	畜便袋・便凝固剤(袋)	2000					300	300		300	300		300		100	300	4500		
	トイレトベーパー(巻)	2736			984		120	120		120	120		240		120		120	4920	
	紙おむつ(枚) 子供用	10080															10080	2000	
	紙おむつ(枚) 大人用	850															850	2000	
	生理用品(個)	4760															4760	1000	
	タオル		30		65		90	90		90	90		90		140	90	955	1000	
	真空ちり紙バック(組)	200															200	5000	
避難所用仕切板(組)	10															10	1000		
床敷マット(枚)	280			30	50			40				2140		100		2640	5000		
更衣室セット天布付	3	2														5	9		

備蓄倉庫名	中央公園倉庫	役場防災倉庫	物品庫	倉見防災倉庫	福祉活動セン	寒川小学校	一之宮小学校	小谷小学校	旭小学校	南小学校	寒川中学校	旭が丘中学校	寒川東中学校	寒川高等学校	合計	計画 目標 備蓄数			
	住所	規模	箇所数	区分	品名														
住所	宮山 275	宮山 165	宮山 165	倉見 936	岡田 610	宮山 934	一之宮 7-3-1	小谷 4-5-1	倉見 1675-3	一之宮 9-9-1	一之宮 3-9-1	小動 933	岡田 718	一之宮 9-30-1					
規模	RC構造 187.11㎡	アルミ 9.6㎡	鉄筋鉄骨コンクリート 340.2㎡	軟鉄 99.37㎡	軽鉄 41.62階㎡	アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	体育館更衣室 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	鉄骨 約50㎡	アルミ 9.6㎡	技術室棟 9.6㎡	アルミ 9.6㎡	アルミ 9.6㎡		
箇所数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
区分	品名																		
救出救助用品	軍手			2724		60	60		60	60	60	60		60		60	60	3264	4000
	革手袋(双)		250															250	1000
	土のう袋(袋)		500		3900		200	200		200	200	200		200		200	200	6200	10000
	土のう杭				200													200	200
	ヘルメット				900													900	1000
	救助格納箱セット	1					1	1		1	1	1		1		1	1	10	10
	チェーンソー				12													12	21
	エンジンカッター				14													14	23
	ガソリン缶 10ℓ				4													4	4
	ガソリン缶 20ℓ				32		1	1		1	1	1		1		1	1	41	41
	油圧ジャッキ				12													12	10
	両刀のこぎり				12		10	10		10	10	10		10		8	10	100	102
	シャベル				53		2	2		2	2	2		2		2	2	71	71
	ツルハシ				21		2	2		2	2	2		2		2	2	39	39
	バール				47		2	2		2	2	2		2		2	2	65	65
	ハンマー				32		2	2		2	2	2		2		2	2	50	50
	カケヤ				25		1	1		1	1	1		1		1	1	34	34
トビクチ				12		1	1		1	1	1		1		1	1	21	21	
トラロープ				2		2	2		2	2	2		2		2	2	20	22	
救急用品	三角巾	1000	825				100	100		100	100	100		100		100	100	2725	5725
	トリアージタグ	3000																3000	5000
	多人数用救急箱 50人用	9	2		1													12	
	救急医療セット	50			1		1	1		1	1	1		1		1	1	60	100
	袋付簡易担架(遺体)	650																650	650
	担架	12					1	1		1	1	1		1		1	1	21	21
その他	テント(2×3)	2																2	2
	テント(2×4)	2																2	2
	ペット用ゲージ(L)				5													5	
	ペット用ゲージ(M)				5													5	
	腕章		70															70	100

《ヒアリング・協議の概要》

- (委員) 災害発生時において、高齢者等の避難困難者の誘導はどのように行うのか。
- (主管課長) 行政職員のみで全町民を誘導するのは難しいと考えている。現在、避難所運営マニュアルや地域防災計画の見直しを自治会及び民生委員とともにやっているが、その中で自力で避難できない要援護者のフォローについても検討している。また、町の総合防災訓練においても、民生委員と自治会による要援護者対応という項目を設けている。個人情報保護等の問題もあり100%の把握までとはいかないが、行政と地域が把握している情報の連携について、協力体制の確立を図っているところである。
- (委員長) 現在作成中であるという各種マニュアルや計画について、完成期日はいつか。災害はいつ起きるか分からないので、一刻も早い完成が望まれるが、最低でも年度内には完成できるのか。
- (主管課長) 町作成の基本マニュアルについては、今年の3月にすでに完成している。10箇所ある避難所ごとの実状に応じた詳細なマニュアルについて、7月中の完成を目標に会議を開催し、検討していたが、地域ごとの温度差等の問題もあり、現在も継続して検討している状況である。年度内には完成させたいと考えている。
- (委員) 国道・県道・町道・私道に電気・ガス・上水道・下水道・ケーブル等が埋設されているが、それぞれの図面等を完備するなど、町で把握はできているのか。新潟地震の際は、図面等の不備により、復旧に支障が生じたと聞いている。
- (担当) 道路における埋設物等については道路課で、下水道については下水道課で、というように町組織の中でそれぞれ所管がある。復旧作業などの際には、各所管が所有する情報を集約し、活用していくことを考えている。また、私道については私有地なので、町で埋設物等の把握はできていないというのが現状である。私道の割合等も把握していないので、今後、そもそも把握できるのかどうかも含めて、調整・検討したい。
- (委員長) 災害発生時に、スムーズな情報集約は可能か。事前に集約しておくべきでは。
- (主管課長) 災害発生時には、防災安全課が全てを行うわけではなく、各課等においてすべきことが決まっている。事後に報告等の必要性はあるが、初動の指示はそれぞれの所管課が行うことと考えている。
- (委員) 町は津波対策について考えていないということだが、なぜか。町には浄水場があり、そこに海水が流入した場合、非常に大きな被害になると考えられるが。
- (担当者) 今年の3月に県が津波浸水予測図を作成した。その中で、相模川、つまり町に最も影響があるとされている慶長型地震であっても、川沿いの遡上は神川橋付近までであって、町に被害は無いという結論を受けての判断である。
- (委員) 町のホームページにその旨の説明をきちんとしておいた方が良い。東日本大震災の津波の規模を想定したものではなく、慶長型地震の想定で、ということを分かりやすく。
- (委員長) 事務事業評価シートの「成果指標」で資機材の備蓄率について、目標と実績の算出方法と考え方は？
- (担当) 算出方法については、資料の「災害応急対策用備蓄資機材一覧表」(5・6ページ)で、食料品を除いた各種資機材の総数を使用して、現状の備蓄総数÷備蓄目標総数×100としている。
- (委員長) 性質や規模が全く違う資機材を全て足したうえで達成率を出すというのは、ずいぶん粗いやり方ではないか。例えば、町民の関心が高いものをピックアップして目標設定する。または、全ての達成率を計りたいのであれば、品別の達成率を出して、平均達成率を出した方が良くと思う。
- (担当) 今後は、その方向で検討する。
- (委員長) 食料の備蓄については、購入と賞味期限切れによる消費(自治会等で活用)を計画

的に行うことにより、平成 28 年度には目標である 9 万 4,000 食を達成することだが、その計画を前倒しにする必要はないのか。また、備蓄食料の内容についても検討の余地はないのか。

(担当) 食料品については賞味期限があり、一度に大量購入すると期限が切れたときの消費方法の問題もあるので、計画的に購入していきたい。また、内容については、フリーズドライのアルファ米が一般的に普及して安価になったので、そちらに随時切り替えているところである。

(委員) 災害時の食料については、自己責任が基本である。財政難の時に何万食も備蓄する必要はないと考える。ただし、病人や高齢者用の流動食などの特殊な食糧の備蓄は必要だと思う。

(主管課長) 最終的にはそのような形になることがベストであると考えている。町としても 3 日分の食料・飲料については各家庭で備蓄していただくようお願いしているところである。

(委員長) 食料の備蓄については自己責任が基本ということだが、現在、町民の備蓄率は把握されてるのか。

(担当) 今回初めての試みで、自治会ごとに約 20 世帯ずつ、備蓄に関するアンケート調査を依頼しているところである。まだ集計はできていない。

(委員長) 飲料水については、耐震性貯水槽以外に何か措置はあるのか。

(担当) 耐震性貯水槽以外には、神奈川県企業庁(寒川浄水場)及び倉見のキリンビバレッジと飲料水の応援協定を締結し、飲料水を確保する手段も整えている。飲料水に関しては、他自治体よりも恵まれていると言える。

(委員長) 耐震性貯水槽の管理に関する委託の内容はどのようなものか。

(担当) 委託内容としては、地下にある遮断弁室と給水室という 2 つの部屋に水がたまるので、その排水作業。また、さび取りや泥の除去などの清掃作業と水漏れなどのチェック作業が主なものである。委託による作業は年に 1 回だが、この貯水槽は非常時には遮断弁が閉じてタンク状になるが、通常は水道管の一部であるので、水道局が年に 2 回水質の検査等を行っている。

(副委員長) 液状化被害について、県の予測図等を見れば、詳細は分からなくとも、町に大きな被害が出ることは容易に予測できる。何か対策はあるのか。例えば、液状化しないための対策として、地質調査や地質改良に援助をするなど。大きな問題であるので、積極的な取り組みをお願いしたい。

(主管課長) 金銭面・技術面の問題から、委員が提示されたような方策は考えていない。今後も引き続き検討していく。

(委員長) 目標備蓄数の算出根拠は何か。また、見直しは行われているのか。

(主管課長) 項目については毎年見直しを行い、良い商品が出れば切り替えるなどの措置を取っている。最近では、女性目線での備蓄品の必要性が言われているので、そのように変更されている部分もある。また、目標備蓄数については、県の被害想定に基づき、10 箇所ある広域避難所にそれぞれ何人ぐらい避難されるかということ想定し、その想定に基づいて備蓄をしている状況である。

(委員長) 備蓄場所については、食料品を見ると殆どが中央公園の倉庫になっているが。

(主管課長) 広域避難所とされている施設に備蓄させてもらうよう交渉しているところだが、各施設のスペースの問題などにより難航している。食料品と医薬品については、温度・湿度の関係で外のコンテナでは保管できないこともあり、難しい面がある。

(委員) 過去の災害を見ても、備蓄品が足りなくて困ったというよりは、効率良く配分できない、使えないということが話題になっていると思う。そういった連携のあり方が重要なのでは。

(主管課長) 町の地理を考えても、完全に遮断されてしまうという状況は考えにくい。援助物資の保管場所や配分方法を明確にすることも今後の課題と考えている。

(委員長) やはり、備蓄資機材については分散して保管することが望ましい。1箇所での保管では、行き渡らない可能性が高いと思われる。